

論文要旨

所属ゼミ	小林 研究会	学籍番号	80631090	氏名	葉 律志
(論文題名)					
<p style="margin: 0;">イノベーション・マネジメントとM&A戦略 ー日台韓TFT-LCD産業を中心にー</p>					
(内容の要旨)					
<p>本研究の目的は、M&A戦略を活用したイノベーション・マネジメントを、将来の競争戦略を模索する企業に対して、競争優位性を構築できる経営戦略として、提言することにある。</p>					
<p>近年、急速な技術革新、また製品ライフサイクルの短縮化に伴い、従来のビジネス手法では、革新的製品を創造し、業界をリードするトップ企業となることは難しくなりつつある。また、企業間競争のグローバル化は企業活動にイノベーションと一層のスピードを求めている。以上の理由により、企業はコア・コンピタンスを明確に定義し、限られた資源を集中的に投下することによって、競争力を強化することが不可欠であると同時に、急速に変化する環境の中、自社の能力だけでなく、外部資源・他社能力を積極的に取り入れる必要性が高まっている。</p>					
<p>そこで、企業がイノベーション・マネジメントを行う際に、戦略的M&Aが重要な鍵を握ると考える。企業は自社が置かれているポジションに応じた、戦略的M&Aを行うことにより、異なったイノベーション・マネジメントを可能とし、競争力優位性を構築・維持することができる。</p>					
<p>本論文は、理論研究により、イノベーション・マネジメントとM&A戦略を目的別に分類し、その分類に該当する日本・台湾・韓国のTFT-LCD産業に於けるパネル・メーカーの事例に対し、分析ファクターを用いて、定性事例研究を行った。その結果、以下の結論を導くに至った。</p>					
<p>1. 製品イノベーションのために、技術獲得型M&Aを行う際には、下記の点が重要である。</p>					
<p>①獲得する技術に関連する基礎研究開発能力、②技術・ノウハウを効果的に引き出せるコミュニケーション能力</p>					
<p>2. 市場イノベーション及びオペレーション・イノベーションのために、水平拡大型M&Aを行う際には、下記の点が重要である。</p>					
<p>①買収・合併先が共感する戦略目標、②自社の強い資金調達力</p>					
<p>3. オペレーション・イノベーションのために、垂直拡大型M&Aを行う際には、下記の点が重要である。</p>					
<p>①各自の強いコア・コンピタンス、②経営者の強い戦略構築力</p>					
<p>4. 再生イノベーションのために、事業再編型M&Aを行う際には、下記の点が重要である。</p>					
<p>①企業のコア事業を決める、②経営者の迅速な意思決定能力</p>					
<p>企業がイノベーション・マネジメントを目的としたM&A戦略により、組織構成を活発に組換え、選択と集中を徹底すると同時に、技術と資金を有効に活用できる体制を実現することができると、競合他社より有利な市場ポジションを確保でき、競争力を発揮し続けることが可能となる。</p>					